

子育てチャンネル

いきいき・わくわく塾講師
三原 真琴
MAKOTO MIHARA



人間誰しも怒ったり、叱ったりすることは得意でも誉めることは案外苦手なものです。

われわれは子供や家人もしくは会社、勤め先、社会一般周囲の人々あるいは道や国などに対して時々、または常時怒ったり腹を立てたりしながら生活しています。そしてそういう腹だたい出来事がたくさん起きています。(ただ単に自分だけが腹を立てているにすぎないとしても)

しかし日常の中には誉めたりよくやったねというような事象が仲々みつからないし、起こることが少ないのも事実です。

もし、それがたまたまみつかったり起きたりしても、その時々でタイミングよく褒めなければその効力、効果は半減してしまいます。あの時誉めてやればよかつたなあと思っても後の祭りでもどすことはできません。ですから「いぶん」と難しいものだとはいえませんが、

「広辞苑などによると」「怒る」と「叱る」は内容的に区別されているようですが一般的には同義語として使われている場合が多いように思います。しかし教育的にはやはり区別したほうがよいでしょう。

「怒る」はいかつたり、腹を立てたりして子供に手を上げたり物に当たったりどなりつけたりしますがそこには感情の爆発や興奮があります。

「叱る」は声をあらだててとがめたり、戒めたりするわけですがそこには教諭すまたは注意反省などの要素も含まれていますし冷静さや見通しも組み込まれているのではないかと思います。

人間ですから時には怒ることも叱ることもあるかと思いますが、こうした使い分けができればいいなあと思っています。でも緊急時にはそうはまいますまい。怒って結構。

以前にもちよつと書いたことがありますが「二番」といつ時の叱り方は後々までも心の奥にずっと残るような「教諭す」といつ方法を考えたいものですか。

さて誉める褒めるですが先程書きましたように仲々そついつ事象や出来事がみつからない忙しい現代社会ですが努めて探しましょう。家に帰って子供達がいたら、今日学校でいいことなかつたかい、「あるある、飛び箱」うまく飛べて先生に誉められた、「算数百点取ったよ」、「図画みんなの前で誉められた」そこでチャンス到来とばかりびつくりしておおげさに「すげえー父さんなんかいつもピリケツだつたなあ」そこで明日から体育も算数も図画も大好きな子供になるのです。ただし高学年にはこの手はちよつと使えませんね。もつと高級な手を使いましょう。

上手に誉めて上手に叱る

(誉めれば豚も木に登る)

大人社会でも同僚や下の人に正中でも飲ませながら「このころ頑張ってるなあ、あの考え方すこいと思うなあ」次の日から彼は見違えるように仕事をします。唯われわれ日本人はストリートなワンダフルや賞賛、誉めたえられるという事に慣れていませんので謙讓の美德とやらでただただ照れてしまう傾向があります。少々誤解をまねくかも知れませんが外国の方は「いぶん」と素直にそれを受け止め大いに喜び合います。われわれも学ぶべきかもしれません。こういう照れが蓄積されないうちに大いに誉めておくことです。

しかし褒めた見返りの「褒美」などには十分なるご注意をお願いいたします。へたするとすべてが台無しになってしまいます。

副題にあります「誉めれば豚も木に登る」は私の好きな言葉ですがお嫌いな方もいらつしやるかもしれません。ただ誉めることが、いかに大事なところなのか、いかにやる気を起す源となるのか、ということだけはぜひご理解をいただきたいものだと思います。「わかっちゃいるけどできません」少しさびしい気がいたします。

三原 真琴 みはらまこと

いきいき・わくわく塾講師

いきいき・わくわく塾

町教委・東子連主催で高齢者が子ども達に伝授する講座や、高齢者と子ども達が一緒に学ぶ講座が年間概ね7講座開催される。

講師には町内の芸術家や学識経験者などがあつている。

